

市社会福祉審議会 関係規定

＜京都市社会福祉審議会条例＞

(設置)

第1条 社会福祉法（以下「法」という。）第7第1項に規定する地方社会福祉審議会として、京都市社会福祉審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(委員の任期)

第2条 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(副委員長)

第3条 審議会に副委員長を置く。

2 副委員長は、委員の互選により定める。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。

(招集及び議事)

第4条 審議会は、委員長が招集する。

2 委員長は、委員の4分の1以上が審議すべき事項を示して招集を請求したときは、審議会を招集しなければならない。

3 委員長は、会議の議長となる。

4 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

5 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 特別の事項について会議を開き、議決を行うときは、前2項の規定の適用については、当該事項に係る臨時委員は、委員とみなす。

(専門分科会)

第5条 専門分科会（民生委員審査専門分科会を除く。）は、委員長が指名する委員及び臨時委員をもって組織する。

2 専門分科会ごとに専門分科会長を置く。

3 専門分科会長は、その専門分科会に属する委員及び臨時委員（民生委員審査専門分科会にあっては、委員）の互選により定める。

4 専門分科会長は、その専門分科会の事務を掌理する。

5 専門分科会長に事故があるときは、あらかじめ専門分科会長の指名する委員又は臨時委員（民生委員審査専門分科会にあっては、委員）がその職務を代理する。

(児童福祉に関する事項の調査及び審議)

第6条 審議会は、法第12条第1項の規定に基づき、児童福祉に関する事項を調査し、及び審議するものとする。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、市長が定める。

＜京都市社会福祉審議会条例施行規則＞

(専門分科会の招集及び議事)

第1条 京都市社会福祉審議会（以下「審議会」という。）の専門分科会は、専門分科会長が招集する。

2 専門分科会長は、会議の議長となる。

3 専門分科会は、その専門分科会に属する委員及び臨時委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

4 専門分科会の議事は、出席した委員及び臨時委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第2条 専門分科会は、特定の事項を調査し、及び審議させるため必要があると認めるときは、部会を置くことができる。

2 部会は、専門分科会に属する委員及び臨時委員のうちから委員長が指名する委員及び臨時委員をもって組織する。

3 部会ごとに部会長を置く。

4 部会長は、その部会に属する委員及び臨時委員の互選により定める。

5 部会長は、その部会の事務を掌理する。

6 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長の指名する委員又は臨時委員がその職務を代理する。

(部会の招集及び議事)

第3条 部会は、部会長が招集する。

2 部会長は、会議の議長となる。

3 部会は、その部会に属する委員及び臨時委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

4 部会の議事は、出席した委員及び臨時委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 部会長は、部会の調査又は審議が終了したときは、当該調査又は審議の結果をその部会が属する専門分科会に報告しなければならない。

(庶務)

第4条 審議会の庶務は、保健福祉局において行う。

(補則)

第5条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。